

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-7664

(P2020-7664A)

(43) 公開日 令和2年1月16日 (2020.1.16)

|                                      |                     |             |
|--------------------------------------|---------------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                         | F I                 | テーマコード (参考) |
| <b>A 4 1 D 13/12 (2006.01)</b>       | A 4 1 D 13/12 1 3 6 | 3 B 0 1 1   |
| <b>A 4 1 D 10/00 (2006.01)</b>       | A 4 1 D 13/12 1 4 5 |             |
|                                      | A 4 1 D 13/12 1 9 0 |             |
|                                      | A 4 1 D 10/00 G     |             |
|                                      | A 4 1 D 10/00 H     |             |
| 審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁) 最終頁に続く |                     |             |

(21) 出願番号 特願2018-129394 (P2018-129394)  
 (22) 出願日 平成30年7月6日 (2018.7.6)

(71) 出願人 500248423  
 藤原 茂  
 山口県萩市大字河添94の1  
 (74) 代理人 100111132  
 弁理士 井上 浩  
 (72) 発明者 藤原 茂  
 山口県萩市大字河添94の1  
 Fターム(参考) 3B011 AA01 AA02 AB08 AC22

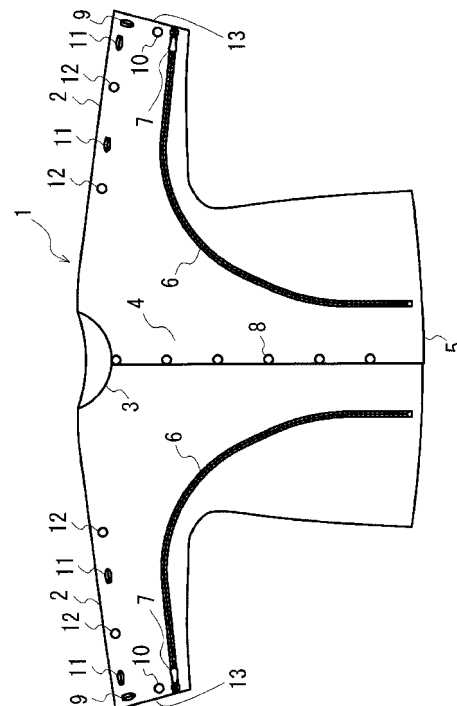
(54) 【発明の名称】 介護用上着と介護用ワンピース

## (57) 【要約】

【課題】 予めベッドや布団に開いた状態で衣服を敷き、その上に背中を乗せて仰臥位で着衣させる際に、容易に短時間に精神的なストレスなしに被介護者の腕を両袖に通して着衣可能な介護用上着と介護用ワンピースを提供する。

【解決手段】 両手それぞれの長袖2の袖口13からそれぞれの前身頃4の下端部5まで設けられた開閉ライン6と、それぞれの開閉ライン6に係止され長袖2の袖口13から前身頃4の下端部5の方向へスライドすることで長袖2の袖口13から前身頃4の下端部5までの間を開かせるスライダー7と、を備え、前身頃4の中央部は襟口3から下端部5まで開閉可能に構成され、開閉ライン6は前身頃4の下端部5で閉固定されて下端部5自体は開けない介護用上着1である。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

被介護者が着用する長袖の介護用上着であって、

両手それぞれの前記長袖の袖口からそれぞれの前身頃の下端部まで設けられた開閉ラインと、それぞれの前記開閉ラインに係止され前記長袖の袖口から前記前身頃の下端部の方向へスライドすることで前記長袖の袖口から前記前身頃の下端部までの間を開かせるスライダーと、を備え、

前記前身頃の中央部は襟口から下端部まで開閉可能に構成され、前記開閉ラインは前記前身頃の下端部で閉固定されて下端部自体は開けないことを特徴とする介護用上着。

**【請求項 2】**

被介護者が着用する長袖の介護用ワンピースであって、

両手それぞれの前記長袖の袖口から、それぞれの前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置まで設けられた開閉ラインと、それぞれの前記開閉ラインに係止され前記長袖の袖口から前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置の方向へスライドすることで前記長袖の袖口から前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置までの間を開かせるスライダーと、を備え、

前記前身頃の中央部は襟口から下端部まで開閉可能に構成され、前記開閉ラインは前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置で閉固定されることを特徴とする介護用ワンピース。

**【請求項 3】**

前記長袖は、袖丈又は袖口幅を調整可能な留め具を備えることを特徴とする請求項 1 記載の介護用上着。

**【請求項 4】**

前記長袖は、袖丈又は袖口幅を調整可能な留め具を備えることを特徴とする請求項 2 記載の介護用ワンピース。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、被介護者が着用する介護用衣服に係り、特に、被介護者が横になったままでも介護者が容易に着脱させることができる介護用衣服に関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来、高齢や病気の後遺症などを原因とする要介護者は、片麻痺や筋肉固縮が生じていることも多くあって、衣服の着替えや脱衣後のおむつの交換などが容易ではなく、介護者にとって長時間にわたる力仕事となってしまう、負担が大きいという課題があった。

そこで、介護者の負担を軽減する衣服に関する発明が多くなされるようになり、例えば、特許文献 1 には「介護パジャマ」という名称で、介護パジャマの上衣とズボンに関する発明であって、そのうち上衣は、前開きとし前身頃の左右少なくともいずれか一方の所定幅で下から胸部所定点のところまでオープンファスナーを使用し開閉自在とすると共に、袖口からも胸部所定点又はその近傍のところまで、オープンファスナーを使用し開閉自在にした構造のものが開示されている。

この特許文献 1 に開示される発明では、介護パジャマの上衣を前開きとし、前身頃の左右少なくともいずれか一方の所定幅で、下から胸部所定点のところまでオープンファスナーを使用し、開閉自在にしたことにより、寝たきりの人が起き上がることなく横臥位の状態で、左右に体を動かすことにより着脱を容易にすることが可能である。

**【0003】**

また、特許文献 2 には、「介護用衣服」という名称で、袖の袖下における全長及び身頃

の脇下における全長に亘るラインを、そのラインの両側の布に相対的に取り付けられた嵌脱自在の雄スナップと雌スナップとにより開閉可能に構成し、ラインを開いたときに袖前面及び前身頃を袖後面及び後身頃に対して展開可能とし、被介護者への着脱が容易で、介護の手間を低減することができる発明が開示されている。

【0004】

さらに、特許文献3では、「肢体不自由者又は被介護者用の上着」という名称で、長袖で、首元が胸部分まで開閉可能であり、着脱時に被介護者の頭を通しやすくなっている。また、身ごろの側腹部から袖口にかけて開閉部を有し、着脱時に開閉部を大きく開くことによって手が袖を通過することを容易にする考案が開示されている。

【0005】

特許文献4では、「介護用衣類」という名称で、上着の左右脇側下端から袖口および/あるいは首回りから袖口までを連続する開閉ラインを設け、この開閉ラインに一对のスライダーを備えたダブルファスナーを取り付けて、上記スライダーを両端から中央側へと引くことにより開閉ラインを開けて、介護される人には着心地が良く、介護する人には衣類の脱着が負担にならずに手助け出来る介護用衣服が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2006-200105号公報

【特許文献2】特開2001-226807号公報

【特許文献3】登録実用新案第3192143号公報

【特許文献4】登録実用新案第3064595号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、特許文献2, 3に開示される発明や考案ではいずれも首回りから前身頃の下端までの間で完全に開かれる状態となる構造ではないため、片麻痺の高齢者や被介護者に衣服を着せる際に、予めベッドや布団に開いた状態で衣服を敷き、その上に背中を乗せて仰臥位で着衣させることができないという課題があった。首回りなどが閉じた状態では、必ずその閉じた状態の衣服の孔に被介護者の身体を挿入する必要があり、被介護者の抵抗を受けたり、身体が挿入し辛かったりすることで、介護者にとって肉体的にも精神的にも負担になってしまうという課題があった。

【0008】

一方、特許文献1に開示される発明では、首回りから前身頃の下端までの間でボタンを外すことで完全に開くシャツ様の構造に、前身頃の下端から袖口まで連続する開閉ラインが設けられており、袖口と前身頃の下端が開く構造が付加されているため、予めベッドや布団に開いた状態で衣服を敷き、その上に背中を乗せて仰臥位で着衣させようとする、ボタンと開閉ラインを閉じる必要があり、特に開閉ラインのファスナーはその下端で嵌め留め難く、時間もかかり、被介護者が動いてしまうような状態では精神的な負担が大きくなってしまふ。

さらに、特許文献4に開示される考案においても、首回りから前身頃の下端までの間でボタンを外すことで完全に開くシャツ様の構造に、脇側の下端から袖口まで連続する開閉ラインが設けられており、脇側の下端と袖口の端部を起点としてそれぞれファスナーのスライダーを移動させながら開閉ラインを開くが、脇側の下端と袖口のいずれもファスナーが分離するので、脇側の下端でファスナーのスライダーを嵌め留める必要があり、その作業に時間がかかり、被介護者が動いてしないような状態では精神的な負担が大きくなってしまふという課題があった。

【0009】

本発明はかかる従来の事情に対処してなされたものであり、予めベッドや布団に開いた状態で衣服を敷き、その上に背中を乗せて仰臥位で着衣させる際に、容易に短時間に精神

10

20

30

40

50

的なストレスなしに被介護者の腕を両袖に通して着衣可能な介護用上着と介護用ワンピースを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記目的を達成するため、第1の発明である介護用上着は、被介護者が着用する長袖の介護用上着であって、両手それぞれの前記長袖の袖口からそれぞれの前身頃の下端部まで設けられた開閉ラインと、それぞれの前記開閉ラインに係止され前記長袖の袖口から前記前身頃の下端部の方向へスライドすることで前記長袖の袖口から前記前身頃の下端部までの間を開かせるスライダーと、を備え、前記前身頃の中央部は襟口から下端部まで開閉可能に構成され、前記開閉ラインは前記前身頃の下端部で閉固定されて下端部自体は開けないことを特徴とするものである。

10

上記構成の介護用上着では、前身頃の中央部が襟口から下端部まで開いて広げるように作用し、開閉ラインは前身頃の下端部で閉固定されており、開閉ラインの延長上の前身頃の下端部自体は開かず、分離しないように作用している。一方、その前身頃の下端部から袖口までの開閉ラインは、スライダーの動きの作用によって袖口から前身頃の下端部まで開くように作用する。

【0011】

また、第2の発明である介護用ワンピースは、被介護者が着用する長袖の介護用ワンピースであって、両手それぞれの前記長袖の袖口から、それぞれの前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置まで設けられた開閉ラインと、それぞれの前記開閉ラインに係止され前記長袖の袖口から前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置の方向へスライドすることで前記長袖の袖口から前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置までの間を開かせるスライダーと、を備え、前記前身頃の中央部は襟口から下端部まで開閉可能に構成され、前記開閉ラインは前記前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置で閉固定されることを特徴とするものである。

20

上記構成の介護用ワンピースでは、第1の発明と同様に作用するが、第2の発明である介護用ワンピースは、第1の発明の介護用上着に比較して丈が長く、開閉ラインは長袖の袖口から、前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置まで設けられているので、その位置までで開閉ラインやスライダーは作用する。なお、前身頃の中央部は第1の発明と同様に襟口から下端部まで開いて広げるように作用する。

30

【0012】

また、第3の発明である介護用上着は、第1の発明において、前記長袖は、袖丈又は袖口幅を調整可能な留め具を備えることを特徴とするものである。

上記構成の介護用上着では、第1の発明の作用に加えて、留め具が長袖の丈又は袖口の幅を調整するように作用する。

【0013】

そして、第4の発明である介護用ワンピースは、第3の発明において、前記長袖は、袖丈又は袖口幅を調整可能な留め具を備えることを特徴とするものである。

上記構成の介護用ワンピースでは、第3の発明の作用に加えて、留め具が長袖の丈又は袖口の幅を調整するように作用する。

40

【発明の効果】

【0014】

本発明の第1の発明である介護用上着では、前身頃の中央部が襟口から下端部まで開くので、その状態で予めベッドや布団、マット上に敷くことができ、その上に被介護者の背中を乗せるようにして仰臥位という楽な姿勢を保持してもらうことができる。

また、開閉ラインを袖口から前身頃の下端部まで開くことで、被介護者の腕の動作領域をカバーする範囲で介護用上着に大きな袖孔を開くことが可能であり、被介護者は容易に腕を広げるようにして通すことが可能である。

しかしながら、大きく開いた開閉ラインは前身頃の下端部では分離していないので、スライダーを嵌め留める必要がなく、被介護者の動きや抵抗に対しても容易かつ迅速にスラ

50

イダーを袖口まで進めて開閉ラインを閉じることが可能である。

【 0 0 1 5 】

本発明の第 2 の発明である介護用ワンピースでも、前身頃の中央部が襟口から下端部まで開くので、その状態で予めベッドや布団、マット上に敷くことができ、その上に被介護者の背中を乗せるようにして仰臥位という楽な姿勢を保持してもらうことができるし、開閉ラインは両手それぞれの前記長袖の袖口からそれぞれの前身頃の下端部まで設けられているので、第 1 の発明と同様に被介護者の腕の動作領域をカバーする範囲で介護用上着に大きな袖孔を開くことが可能であり、被介護者は容易に腕を広げるようにして通すことが可能である。

そして、大きく開いた開閉ラインは前身頃の上端から袖の長さ分下がった位置までの間までしか形成されておらず、前身頃の下端部では分離していないので、第 1 の発明と同様にスライダーを嵌め留める必要がなく、被介護者の動きや抵抗に対しても容易かつ迅速にスライダーを袖口まで進めて開閉ラインを閉じることが可能である。

【 0 0 1 6 】

本発明の第 3 の発明である介護用上着では、第 1 の発明の効果に加えて、留め具によって長袖の袖丈又は袖口の幅を自在に調整することが可能である。

【 0 0 1 7 】

本発明の第 4 の発明である介護用ワンピースでは、第 2 の発明の効果に加えて、留め具によって長袖の袖丈又は袖口の幅を自在に調整することが可能である。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 8 】

【 図 1 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の外形図である。

【 図 2 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の開閉ファスナーを開いている状態を示す概念図である。

【 図 3 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の袖口の状態を示す概念図である。

【 図 4 】 ( a ) は本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の袖を捲り上げて孔フックをボタンに掛けて留めている状態を示す概念図であり、( b ) は同じく第 1 の実施の形態に係る介護用上着の袖口も細めて孔フックをボタンに掛けて留めている状態を示す概念図である。

【 図 5 】 本発明の第 2 の実施の形態に係る介護用ワンピースの外形図である。

【 図 6 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着を被介護者に着せる途中経過を示す概念図である。

【 図 7 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着を被介護者に着せる途中経過を示す概念図である。

【 図 8 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着を被介護者に着せる途中経過を示す概念図である。

【 図 9 】 本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着を被介護者に着せた状態を示す概念図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 9 】

以下に、本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着について図 1 乃至図 4 を参照しながら説明する。

図 1 は本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の外形図であり、図 2 は本発明の第 1 の実施の形態に係る介護用上着の開閉ファスナーを開いている状態を示す概念図である。また、図 3 は介護用上着の袖口の状態を示す概念図であり、図 4 ( a ) は介護用上着の袖を捲り上げて孔フックをボタンに掛けて留めている状態を示し、( b ) は袖を捲り上げた状態でさらに介護用上着の袖口を細めて孔フックをボタンに掛けて留めた状態を示している。

図 1 , 2 において、介護用上着 1 は、長袖 2 の上着であり、前身頃 4 の中央部は、襟口 3 から下端部 5 までボタン 8 留めでき、すべてのボタン 8 を外すと前身頃 4 を完全に開く

10

20

30

40

50

、すなわち下端部 5 を左右に分離させることが可能である。

また、前身頃 4 には左右とも長袖 2 の袖口 1 3 から下端部 5 まで連続して開閉ファスナー 6 が設けられており、スライダー 7 を移動させることで開閉することが可能である。ただし、図 2 , 3 に示すとおり、開閉ファスナー 6 は、スライダー 7 を前身頃 4 側へ移動させることによって袖口 1 3 を完全に開くことが可能であるが、下端部 5 では前身頃 4 を左右に開いて分離できないように閉固定されている。

#### 【 0 0 2 0 】

介護用上着 1 の下端部 5 は、2 つの重要な意味を備えている。

1 点目は、介護用上着 1 の下端部 5 の位置は、長袖 2 を下した際の袖口 1 3 の位置と略同一であり、すなわち、被介護者の腕の動作範囲の下端と略同一であるという点である。したがって、袖口 1 3 から開閉ファスナー 6 を前身頃 4 の下端部 5 まで設けることで、長袖 2 の袖口 1 3 から前身頃 4 の下端部 5 までが大きく開き、被介護者の腕を容易にその開いた袖孔 1 4 に通すことが可能である。

袖孔 1 4 に腕を通した後に、左右の前身頃 4 の下端部 5 に位置するスライダー 7 ( 図 3 参照 ) を袖口 1 3 に向けて引き上げることで、前身頃 4 から袖口 1 3 にかけて閉じ、被介護者の腕を長袖 2 に容易に通すことができる。

2 点目は、介護用上着 1 の下端部 5 は衣服の端部であることから、ここで開閉ファスナー 6 が左右に分離してしまうと、スライダー 7 を開閉ファスナー 6 に嵌め留めなければならない。したがって、開閉ファスナー 6 はこの下端部 5 近傍まで設けられているものの、その延長上の下端部 5 自体は開かず、閉固定されるのである。開閉ファスナー 6 が開くように構成されると、袖孔 1 4 のように孔は形成されないの、袖口 1 3 から続く前身頃 4 と後身頃との間に被介護者の腕を挿入するが、その場合、被介護者の腕を挿入した後、分離した左右の開閉ファスナー 6 を前身頃 4 の下端部 5 で合わせた後、スライダー 7 を開閉ファスナー 6 に嵌め留めてから袖口 1 3 に向けて引き上げる必要がある。

被介護者は高齢化や病気などで片麻痺があったり筋肉固縮が生じるなど障害がある場合もあり、また、介護自体を嫌って介護者が望むほどおとなしい態度や姿勢を維持できない場合も多い。そのような介護現場で前身頃 4 の下端部 5 の開閉ファスナー 6 にスライダー 7 を逐一嵌め留めることは介護者に精神的な負担を強いることも多く、また、時間も多くなってしまう。

そこで、介護用上着 1 の下端部 5 近傍まで開閉ファスナー 6 は開くように構成されるものの、その延長としての下端部 5 自体は開いて左右に分離しないように閉固定されている。

#### 【 0 0 2 1 】

次に、本実施の形態に係る介護用上着 1 の長袖 2 の構造について説明する。

図 1 , 2 に示されるとおり、長袖 2 には、長さ方向に沿って、袖口 1 3 を捲った後の留め具として孔フック 1 1 とボタン 1 2 が 1 組以上備えられており、袖口 1 3 には袖口 1 3 の幅を絞るための留め具として孔フック 9 とボタン 1 0 が設けられている。

孔フック 1 1 とボタン 1 2 は、図 4 ( a ) に示すとおり、気温の変化などに伴い、介護者が袖を捲り、長袖 2 の袖丈を調節した後、孔フック 1 1 をボタン 1 2 に掛けることで留めるものである。また、図 4 ( b ) に示すとおり、袖口 1 3 を細めるために孔フック 9 をボタン 1 0 に掛けることができる。

さらに、図 3 に示すとおり、長袖 2 の袖口 1 3 まで開閉ファスナー 6 が設けられており、この開閉ファスナー 6 はスライダー 7 を前身頃 4 側に移動させることで、袖口 1 3 を完全に開くことが可能である。

このように袖口 1 3 が完全に開かれることで、前身頃 4 の下端部 5 が閉じた状態と相俟って袖口 1 3 から前身頃 4 の下端部 5 まで大きく開いた袖孔 1 4 が形成されることになるのである。

#### 【 0 0 2 2 】

次に、本発明の第 2 の実施の形態に係る介護用ワンピース 1 5 について、図 5 を参照しながら説明する。図 5 は、本発明の第 2 の実施の形態に係る介護用ワンピースの外形図で

ある。図 5 において図 1 に示される介護用上着 1 と同一の構成には同一の符号を付し、その構成の説明は省略する。

図 5 において、介護用ワンピース 15 は介護用上着 1 よりも丈が長い点と、長袖 2 の袖口 13 から前身頃 4 まで延びる開閉ファスナー 6 が、その下端部 5 までは設けられておらず、襟口 3 から下端部 5 までの略中間部となる袖到達領域 16 まで設けられている点で異なる。

この袖到達領域 16 とは、長袖 2 を折り曲げて下した際に、その袖口 13 が前身頃 4 上でどこまで到達できるかという領域を示すもので、その破線がその領域の下端を示している。すなわち、この袖到達領域 16 は被介護者 20 の腕の動作領域を示すものでもあり、この部分で開閉ファスナー 6 を備えて袖口 13 から開くことができれば、介護者が被介護者の腕を容易に図 2 で示す袖孔 14 へ導くことが可能となる。

介護用ワンピース 15 では、丈が長いので前身頃 4 の中央部に設けられているボタン 8 が多いが、中央部は介護用上着 1 と同様に完全に開くことが可能である。

また、介護用ワンピース 15 の長袖 2 にも介護用上着 1 と同様に留め具として孔フック 9, 11 とボタン 10, 12 が設けられている。

#### 【0023】

次に、第 1 の実施の形態に係る介護用上着 1 を被介護者に着せる手順を図 6 乃至図 9 を参照しながら説明しつつ、介護用上着 1 の作用や効果について説明する。

図 6 乃至図 8 は介護用上着を被介護者に着せる途中経過を示す概念図であり、図 9 は着せた状態を示す概念図である。図 6 乃至図 9 において、図 1 乃至図 4 で示した構成と同一の構成には同一の符号を付し、その構成の説明は省略する。

介護用上着 1 は前身頃 4 の中央部に襟口 3 から下端部 5 まで完全に開くことができる構成を備えているので、図 6 において、マット 21 の上に、前身頃 4 の中央部のボタン 8 を外して襟口 3 から下端部 5 まで完全に開いた介護用上着 1 を乗せた後、マット 21 上に添えられた枕 22 と介護用上着 1 の上に、被介護者 20 を横たわらせて仰臥位とした状態から介護用上着 1 を着せることが可能である。

介護用上着 1 は、予め両側の前身頃 4 において開閉ファスナー 6 を袖口 13 から前身頃 4 の下端部 5 まで開くことで袖孔 14 が形成されている。

#### 【0024】

次に、図 7 において、一方の袖孔 14 に被介護者 20 の腕 23 を通す。腕 23 の通し方は、図 6 の状態から袖孔 14 に通す方の前身頃 4 を被介護者 20 の胸の上に置くように上げるようにして袖孔 14 を大きく開くようにする。袖孔 14 は介護用上着 1 の長袖 2 の袖口 13 から前身頃 4 の下端部 5 まで形成されているので、被介護者 20 の腕 23 の可動範囲をカバーするように作用し、介護者は容易に腕 23 を袖孔 14 に通すことができる。

#### 【0025】

図 8 において、一方の腕 23 を袖孔 14 に通すことができたなら、今度はもう一方の腕 23 をもう一方の袖孔 14 に通す。この場合も前身頃 4 を被介護者 20 の胸の上に被せるように置くことで大きく開いた袖孔 14 に容易に腕 23 を挿入することが可能である。

両方の腕 23 を袖孔 14 に通した後に、それぞれの前身頃 4 に設けられている開閉ファスナー 6 を、スライダー 7 を引き上げることで袖口 13 まで閉じると、前身頃 4 から袖口 13 までが閉じられるように作用し、結局、被介護者 20 の袖通しが完了する。

もちろん、開閉ファスナー 6 のスライダー 7 の引き上げは片方の腕 23 を通した後にそれぞれ行ってもよい。

その後、襟口 3 から前身頃 4 の中央部に設けられているボタン 8 を留めることで被介護者 20 着衣が完了する。

ボタン 8 留めは、最後でなくともよく、例えば、被介護者 20 の腕 23 を袖孔 14 に通す前に、すなわち、仰臥位になった直後に前身頃 4 を両方共被介護者 20 の胸の上に被せ、その際に行ってもよい。その場合の方が、両方の袖孔 14 が開いている状態であることから前身頃 4 の移動の自由度が高く、被介護者 20 の動きや抵抗があったとしても容易にボタン 8 留めすることができると考えられる。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 2 6 】

図 9 は、スライダー 7 を前身頃 4 の下端部 5 から長袖 2 の袖口 1 3 まで引き上げ、前身頃 4 の中央部において襟口 3 から下端部 5 までボタン 8 留めも完了し、すなわち、被介護者 2 0 の着衣が完了した状態を示している。

## 【 0 0 2 7 】

介護用上着 1 では、前身頃 4 の中央部が襟口 3 から下端部 5 まで完全に開く構成を備えているので、その上に被介護者 2 0 に横たわってもらうことから着衣を始めることができ、また、前身頃 4 の下端部 5 から長袖 2 の袖口 1 3 まで連続する開閉ファスナー 6 を設けつつ、しかも下端部 5 では開けないように閉固定しておくことが、両側の前身頃 4 において袖口 1 3 から連続する大きく開ける袖孔 1 4 を形成させるように作用する。その袖孔 1 4 は被介護者 2 0 の腕 2 3 の可動範囲をカバーするように作用することで、介護者は容易に被介護者 2 0 の腕 2 3 を袖孔 1 4 に通すことができるのである。

10

前身頃 4 の下端部 5 で開閉ファスナー 6 が閉固定されることなく開いてしまうと、袖孔 1 4 は形成されないので、左右両側の前身頃 4 はそれぞれ左右に分離し、腕 2 3 を分離した前身頃 4 の間にそれぞれ挿入するのは容易とも考えられるが、その際には、再度スライダー 7 を開閉ファスナー 6 に嵌め留めた上でスライダー 7 を袖口 1 3 まで引き上げる必要がある。被介護者 2 0 が動いたり、介護に対して抵抗しているような状況では、そのスライダー 7 を左右の前身頃 4 の下端部 5 でそれぞれ開閉ファスナー 6 に嵌めるのは介護者にとっては精神的に負担であり、また、時間を要し、作業効率も悪い。

## 【 0 0 2 8 】

20

そこで、本願発明では前身頃 4 の下端部 5 では開閉ファスナー 6 を閉固定して開かないようにし、ただ、腕 2 3 も動作範囲は考慮して袖孔 1 4 を形成させ、介護者が楽にストレスなく被介護者 2 0 の腕 2 3 を挿入できるように配慮しているのである。

本願発明の実施の形態における重要な構成は、介護用上着 1 において完全に開くことができる構成が 1 つのみ存在し、被介護者 2 0 の腕 2 3 を容易に袖通しできるものの、前身頃 4 の下端部 5 では開くことなく、すなわち開閉ファスナー 6 を前身頃 4 の下端部 5 で閉じる作業が不要な構成の組合せである。

この組合せによって、介護用上着 1 の後身頃の上に被介護者 2 0 を横たわらせた状態で、被介護者 2 0 の腕 2 3 を介護用上着 1 の袖に容易に通すことが可能であり、介護者による被介護者 2 0 の着替えを容易にして精神的な負担や作業時間の短縮を図り、もって被介護者 2 0 自身の負担も軽減することができるのである。

30

## 【 0 0 2 9 】

図 6 乃至図 9 では、第 1 の実施の形態に係る介護用上着 1 を用いて説明したが、第 2 の実施の形態に係る介護用ワンピース 1 5 を使用する場合も同様の手順で行うことが可能である。

介護用ワンピース 1 5 では、前述のとおり、前身頃 4 の下端部 5 までは開閉ファスナー 6 が設けられていないが、被介護者 2 0 の腕 2 3 の動作範囲を考慮した袖到達領域 1 6 まで設けられているので、介護用上着 1 と同等の作用と効果を発揮することが可能である。

さらに、介護用上着 1 及び介護用ワンピース 1 5 を被介護者 2 0 から脱がすのは図 6 乃至図 9 を参照しながら説明した着衣の手順の逆の手順で行うことによれば可能である。その際には、前身頃 4 の中央部のボタン 8 を外すタイミングや、開閉ファスナー 6 を両側の長袖 2 の袖口 1 3 から開くタイミングも適宜選択することが可能である。

40

なお、第 1 及び第 2 の実施の形態においては、前身頃 4 の中央部の襟口 3 から下端部 5 までボタン 8 を利用して開閉可能な構成としたが、ボタン 8 の他、例えばフックや面ファスナーなどを用いて開閉可能な構成としてもよく、襟口 3 から前身頃 4 の下端部 5 まで完全に開くことが可能であれば、その構造や数については限定しない。

## 【産業上の利用可能性】

## 【 0 0 3 0 】

以上説明したように、本発明の請求項 1 乃至請求項 4 に記載された発明は、障害者をはじめ病院での入院患者用、あるいは高齢者用のパジャマなどにおいて利用が可能であるし

50

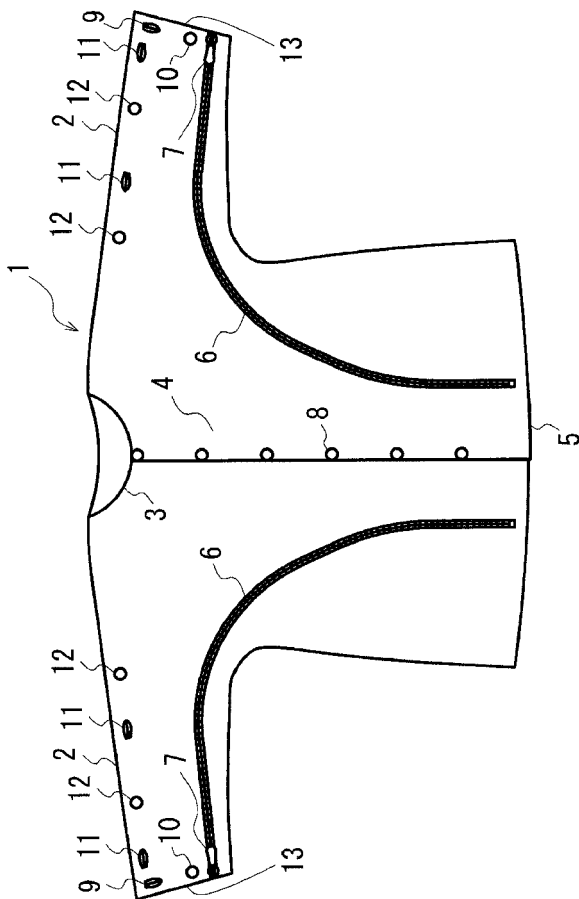
、一般家庭においても介護が必要な場合に普段着などとしても利用の可能性がある。

【符号の説明】

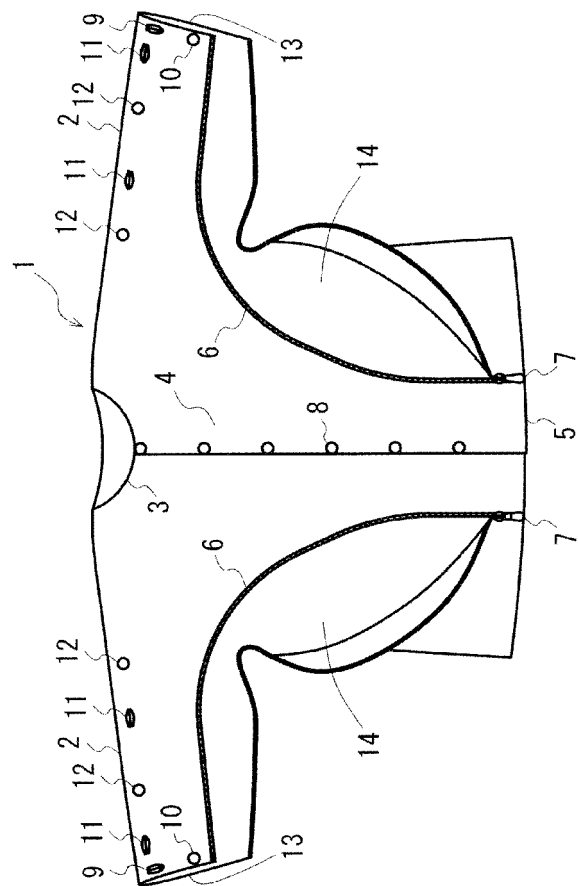
【0031】

1 ... 介護用上着 2 ... 長袖 3 ... 襟口 4 ... 前身頃 5 ... 下端部 6 ... 開閉ファスナー  
7 ... スライダー 8 ... ボタン 9 ... 孔フック 10 ... ボタン 11 ... 孔フック 12 ...  
ボタン 13 ... 袖口 14 ... 袖孔 15 ... 介護用ワンピース 16 ... 袖到達領域 20 ...  
被介護者 21 ... マット 22 ... 枕 23 ... 腕

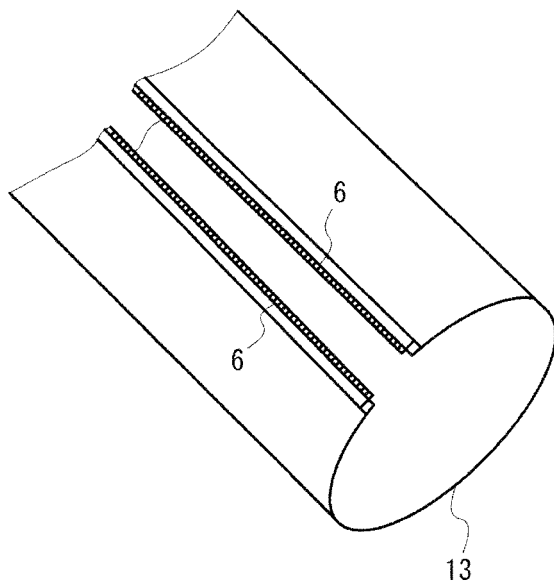
【図1】



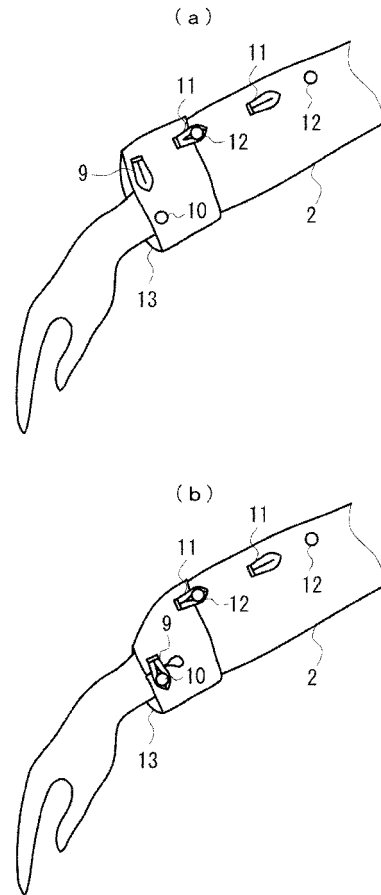
【図2】



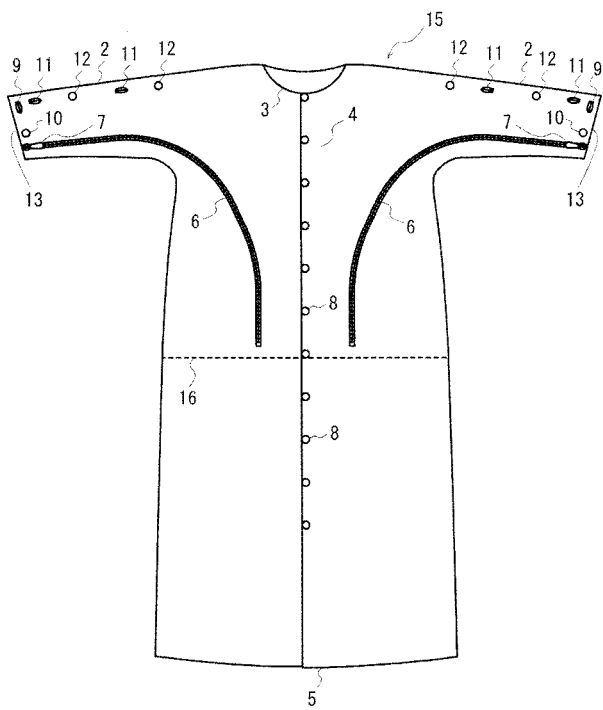
【図 3】



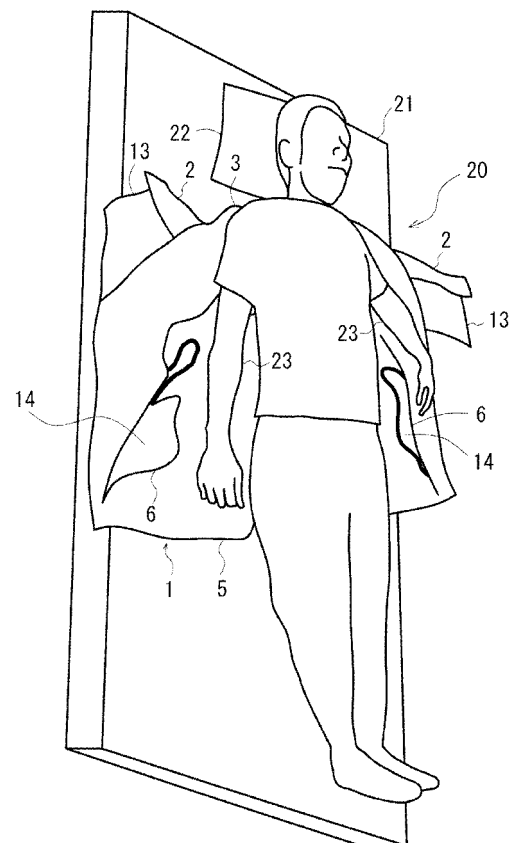
【図 4】



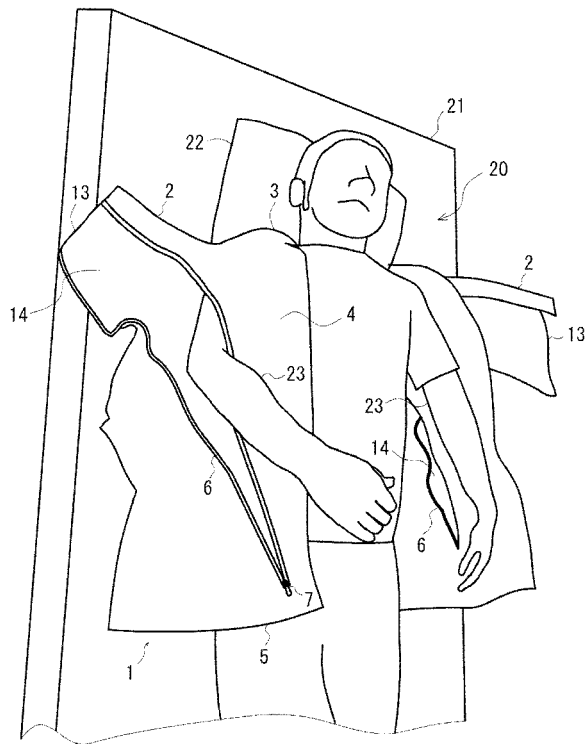
【図 5】



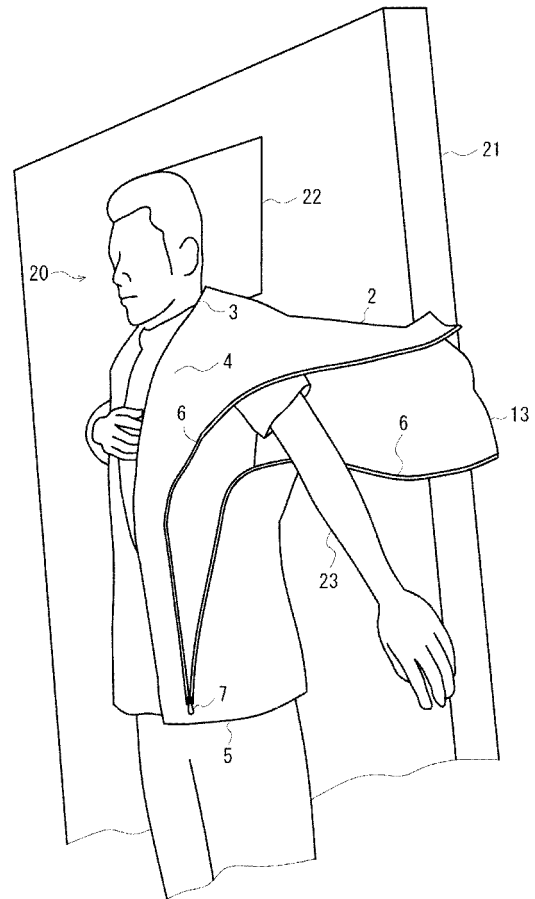
【図 6】



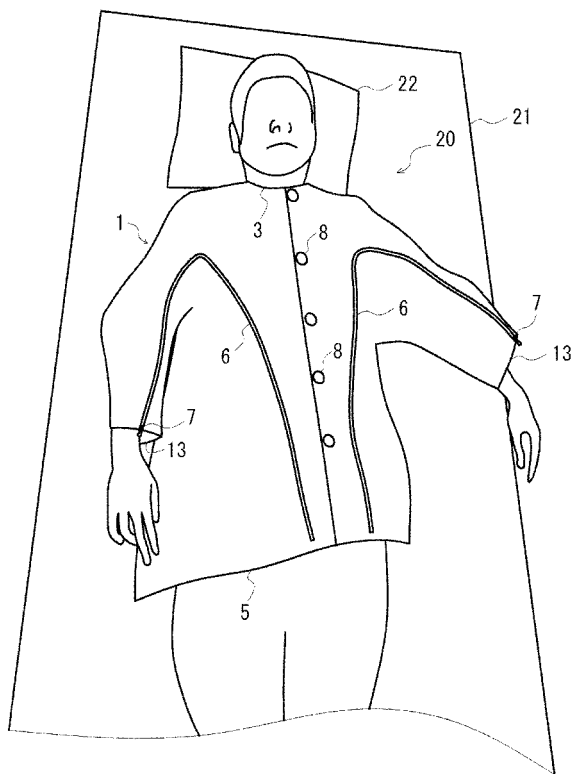
【図 7】



【図 8】



【図 9】



---

フロントページの続き

(51) Int.Cl.

F I

テーマコード ( 参考 )

|         |       |       |
|---------|-------|-------|
| A 4 1 D | 10/00 | D     |
| A 4 1 D | 10/00 | B     |
| A 4 1 D | 13/12 | 1 6 3 |